

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ヤマザキガクエン 学校法人 ヤマザキ学園								
フリガナ大学の名称	ヤマザキドウブツカンゴダイガクダイガクイン ヤマザキ動物看護大学大学院 (Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology)								
大学本部の位置	東京都八王子市南大沢4-7-2								
大学の目的	ヤマザキ動物看護大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の定めるところにより、建学の精神である「生命への畏敬」と「職業人としての自立」を遵守し、「生命（いのち）を生きる」という教育理念に則り、学部教育を基盤に、学術的理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め科学の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	動物看護学研究科は、「生命（いのち）を生きる」を教育理念とし、生命を尊重する倫理観を備え、幅広い視野と創造性をもった豊かな人間教育を行うことを目的とする。高度化する動物医療に鑑み、動物看護学に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。人と動物の豊かな共生社会を構築する必要性に鑑み、人と動物の関係に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。「One World-One Health」の国際的な概念に鑑み、公衆衛生の教育・指導に貢献するため、学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 動物看護学部
	動物看護学研究科 [Graduate School of Animal Health Technology] 動物看護学専攻 [Animal Health Technology Course]	年	人	年次人	人	修士(動物看護学) [Master of Animal Health Technology]	令和3年4月 第1年次	東京都八王子市南大沢 4-7-2	
	計	2	5	—	10				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	ヤマザキ動物看護大学 動物看護学部 動物看護学科〔定員減〕 (△80) (令和3年4月) 動物人間関係学科 (80) (令和3年4月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	動物看護学研究科 動物看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	32単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	動物看護学研究科 動物看護学専攻 (修士課程)	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
		計	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	7 (7)
	既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
合計		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体			
	事 務 職 員		18 (18)	2 (2)	20 (20)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	2 (2)	3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計		19 (19)	4 (4)	23 (23)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	0㎡	17,664.16㎡	0㎡	17,664.16㎡				
	運 動 場 用 地	0㎡	1,402.75㎡	0㎡	1,402.75㎡				
	小 計	0㎡	19,066.91㎡	0㎡	19,066.91㎡				
	そ の 他	0㎡	1,088.21㎡	0㎡	1,088.21㎡				
合 計	0㎡	20,155.12㎡	0㎡	20,155.12㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	126.39㎡ (126.39㎡)	11,196.64㎡ (11,196.64㎡)	0㎡ (0㎡)	11,323.03㎡ (11,323.03㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	14室	8室	13室	2室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数	大学全体				
		動物看護学研究科動物看護学専攻		27 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	動物看護学研究科 動物看護学専攻	26,517 [3,282] (26,474 [3,256])	61 [21] (58 [18])	16 [14] (16 [14])	644 (644)	10,106 (10,106)	238 (238)		
	計	26,517 [3,282] (26,474 [3,256])	61 [21] (58 [18])	16 [14] (16 [14])	644 (644)	10,106 (10,106)	238 (238)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	292.10㎡	40席		29,028冊					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	532.00㎡	-							
経 費 の 見 積 り 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には、電子ジャーナル、データベースを含む。
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	共同研究費等		4,000千円	4,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	図書購入費	3,000千円	1,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	設備購入費	10,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,100千円	950千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金・雑収入・資産運用収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	ヤマザキ動物看護大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	動物看護学部 動物看護学科	4 年	180 人	- 年次人	720 人	学士(動物看護学)	1.10 1.10	平成22年4月	東京都八王子市 南大沢4-7-2

既設大学等の状況	大学の名称	ヤマザキ動物看護専門職短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	動物トータルケア学科	3年	80人	1人	80人	動物看護短期大学士（専門職）	0.97倍	平成31年4月	東京都渋谷区松濤2-3-10'
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要																
(動物看護学研究科動物看護学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	生命倫理学特論	1前	1			○			1	1				兼1	オムニバス	
	動物愛護・福祉特論	1前	2			○								兼1		
	動物看護学Ⅰ	1前	2			○			2					兼1	オムニバス	
	動物看護学Ⅱ	1前		2		○			2					兼2	オムニバス	
	動物看護学演習	1前		1			○		3						オムニバス	
	動物人間関係学特論	1前	2			○			4	1				兼2	オムニバス	
	動物人間関係学演習	1前		1			○		3	1					オムニバス	
	ヒトと動物の環境科学特論	1前	2			○			2						オムニバス	
	動物看護教育特論	1後	1			○			2						オムニバス	
	研究方法論	1前	1			○			8	1					オムニバス・共同(一部)	
小計(10科目)		—	11	4	0	—			10	2	0	0	0	兼7		
専門科目	動物看護学領域	応用動物看護学Ⅰ	1後		2		○		2						オムニバス	
	応用動物看護学演習Ⅰ	2前		1			○		2						オムニバス	
	応用動物看護学Ⅱ	1後		2		○			2						オムニバス	
	応用動物看護学演習Ⅱ	2前		1			○		2						オムニバス	
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			4	0	0	0	0	0	
	動物人間関係学領域	応用動物人間関係学Ⅰ	1後		2		○		1							
	応用動物人間関係学演習Ⅰ	2前		1			○		1							
	応用動物人間関係学Ⅱ	1後		2		○			3	1					オムニバス	
	応用動物人間関係学演習Ⅱ	2前		1			○		3	1					オムニバス	
	小計(4科目)		—	0	6	0	—			4	1	0	0	0	0	
インターンシップ	2通		1				○	1								
小計(1科目)		—	0	1	0	—			1	0	0	0	0	0		
特別研究	1後～2通	10					○	8	1							
小計(1科目)		—	10	0	0	—			8	1	0	0	0	0		
合計(20科目)		—	21	17	0	—			11	2	0	0	0	兼7		
学位又は称号		修士(動物看護学)			学位又は学科の分野									農学関係		
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。 専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。 以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。 特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	生命倫理学特論	<p>(概要)</p> <p>動物看護での主導的な職責遂行には、生命倫理の理解と応用的実践力が必須となる。動物看護の主たる対象である伴侶動物にとどまらず、生命(いのち)を生きるすべての生物への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成してゆく。動物にかかわる様々な職域における飼い主との関係構築や医療過誤などの諸問題に至るまで、応用的実践における倫理的な対応を修得する。幅広い教養や専門知識を有する動物にかかわる多様な職業従事者として有すべき生命倫理の思想や対応を、実例を踏まえて教授する。本講義では、生命倫理における普遍的で基盤的な諸見識について、山北が担当し、教授する。その後、社会学的な視点から臨床現場や社会における具体的な生命倫理的実践について、新島が担当し、臨床心理学的な視点から死生観の育成支援、及びグリーフケアの理解を深める講義を加藤が担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 山北 宣久/3回)</p> <p>「生、命、死」をテーマとして生命倫理を哲学的に考察し教授する。人間は、物理的時間と主観的な時間の中で生き、人が生きる人生と人を生かす人生を生きている。さらに「命」をめぐり、シュヴァイツァーやヴィクトール・フランクルを取り上げた上、最後に必ず訪れる死の現実、死を取り巻く別離、死を見つめて生き抜くことなど、「死」について考察する。</p> <p>(11 加藤 理絵/2回)</p> <p>臨床心理学的な視点から、生命倫理を学ぶ上で重要となる、個人の死生観の育成及び大切な存在の死という経験に直面した他者への援助の理解を深めるよう教授する。</p>	オムニ バス方 式

授 業 科 目 の 概 要

（動物看護学研究科動物看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	生命倫理学特論（つづき）	<p>⑨ 新島 典子／3回）</p> <p>現代社会における動物看護にかかわる生命倫理的視点からみた諸課題、とりわけ、愛玩動物飼育、高齢飼い主の問題飼育、多頭飼育崩壊、高齢伴侶動物の介護や終末期ケア、安楽死など、臨床現場や社会における具体的な生命倫理的諸問題の現状と課題について教授する。</p>	
基礎 科目	動物愛護・福祉特論	<p>先ず動物愛護・福祉の基本概念に注目する。動物に対する人々の考え方は多様であることを理解し、動物の生活の質をより良くするためには科学・倫理・法規の3分野の向上が必要であることを教授する。ペットのみならず人が利用しているさまざまな動物の愛護や福祉、その現状や課題について事例を示しながら解説する。その上で、動物愛護・福祉分野において、動物そして人や社会に対しての役割や取り組みについて教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	動物看護学 I	<p>(概要)</p> <p>動物医療における動物看護学の占める学問的位置づけについて研究データを基に明確にする。同時に、今後の動物看護学の発展のために、動物医療における研究法に関する内容について具体的に詳しく教授する。本講義では、動物看護学を学問として発展させるために、基礎の3本柱となる解剖学・生理学、病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となるべく指導する。さらに、それらが、動物看護学研究発展に寄与できるよう教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑧ 今村 伸一郎/6回)</p> <p>解剖学、生理学の研究分野及びトピックスの紹介。解剖学と生理学は密に関連していることを理解するための、その両者の関連事項についてディスカッションする。またその1つの例として、骨格構造とそこにみられる生理学的機能の関連性をピックアップしながら教授する。</p> <p>⑦ 梅村 隆志/6回)</p> <p>病理学の研究分野及びトピックスの紹介。炎症現象や腫瘍形成、術後合併症の病理学的理解は、臨床における問題解決の重要な手掛かりを与えてくれるものであり、それらを理解するため、病理学的、病理組織学的解析から得られる事象について、ディスカッションを通して修得できるよう教授する。</p> <p>⑬ 近藤 昌弘/3回)</p> <p>薬理学の研究分野及びトピックスの紹介。動物用医薬品の開発や薬効の研究について、どのようにこの分野が発展してきたのか、また今後の方向性などを紹介する。さらに、動物看護の場において、動物看護師が知っておくべき動物用医薬品等に関する知識について、ディスカッションを通し教授する。</p>	オムニ バス方 式

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	動物看護学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>動物医療における動物看護学の占める学問的位置づけについて研究データを基に明確にする。同時に、今後の動物看護学の発展のために、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について具体的に詳しく教授する。本講義では、動物看護学を学問として発展させるために動物内科学、動物栄養学、動物繁殖学、動物検査学の分野を臨床へとつなげ、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となるべく指導する。さらに、それらが、動物看護学研究発展に寄与できるよう教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14) 櫻井 富士朗／4回)</p> <p>動物内科学の研究分野及びトピックスの紹介。臨床現場で遭遇するであろう代表的かつ重要な疾患について専門的理解を深め、動物看護師としての立場からの最善のアプローチについて、ディスカッションを交えながら探求する。</p> <p>(14) 大島 誠之助／3回)</p> <p>動物栄養学の研究分野で話題性の高い成果の紹介。動物の成長などのステージ別栄養状態に対する理解。臨床現場で有益と思われる代表的な疾患の臨床栄養学的対応などの把握。これらから臨床栄養学の貢献と限界などについて、専門的理解を深め、愛玩動物看護師としての最善策の追求について、討議を交えながら探求する。</p> <p>(15) 小嶋 佳彦／3回)</p> <p>犬と猫の動物繁殖学を臨床現場の実際の症例をとおして、発情徴候と交尾からみた繁殖生理、雄の疾患、雌の疾患、不妊および去勢・人工授精、乳腺、産科、新生子の疾患などを教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	動物看護学Ⅱ（つづき）	<p>③ 岡崎 登志夫／5回）</p> <p>動物臨床検査学の研究分野及びトピックスの紹介。臨床検査データを総合的に解析し、各種疾患について動物看護学研究が適切に実施できるように教授する。また、研究を展開する実践的知識と技術を追求するため、具体的なデータ解析手法や研究論文を紹介し、修士論文の執筆に備えることができるように教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

（動物看護学研究科動物看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	動物看護学演習	<p>（概要）</p> <p>動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、それにかかわる知見を整理し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、研究の目的、研究技法・装置、結果の具体的内容を把握し、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。また、本演習を通じて、各々が修士論文として取り組むテーマについても、動物看護学における意義を理解し、その重要性について掌握できるように教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>⑧ 今村 伸一郎／5回） 動物解剖生理学分野のテーマについて、文献検索、収集、内容理解を図り、ディスカッション、プレゼンテーションを通して当該分野の疑問点や問題点の抽出を行い、問題解決策を考えることができるように教授する。</p> <p>⑦ 梅村 隆志／5回） 動物病理学分野のテーマについて、文献検索、収集、内容理解を図り、当該分野の疑問点や問題点の抽出を行い、ディスカッション、プレゼンテーションを通して問題解決策を考えることができるように教授する。</p> <p>④ 櫻井 富士朗／5回） 動物内科学分野のテーマについて、文献検索、収集、内容理解を図り、ディスカッション、プレゼンテーションを通して当該分野の疑問点や問題点の抽出を行い、問題解決策を考えることができるように教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	動物人間関係学特論	<p>(概要)</p> <p>「動物と人間の関係性」の主要なテーマについて、狩る、飼う(家畜化、ペット化)、動物観の4つの多角的な視点から、研究を解説し、総合的に理解する。動物人間関係学の4つの視点から、現代社会における動物看護学領域と動物人間関係学領域の両領域から人と動物の関係性を考える。各教員の研究論文、本学図書館所蔵の秋田犬8ミリフィルムなどの様々な資料を紹介しながら歴史的、文化的な内容を解説する。先行研究を紹介し、レビューする。アニマルセラピー、分子生物学、動物行動学、文化人類学、社会学、愛玩動物(犬、猫、鳥)の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて、動物と人間の関係性を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 山崎 薫/3回</p> <p>「動物と人間の関係性」について、多角的な視点から総合的に述べる。さらに現代社会において、イヌの特性を活用したアニマルセラピーへの取り組み及びアニマルセラピーの現状と課題について教授する。</p> <p>⑤ 小黒 美枝子/2回</p> <p>動物分子生物学的研究の視点から、犬と人の関係性を、日本犬、秋田犬の家畜化とそのルーツ、日本犬の毛色・毛質を取り上げ、論文や資料紹介を通じて解説する。とくに日本犬の中で最近脚光を浴びている秋田犬を取り上げて、その現状と課題を分子生物学的研究の視点も踏まえて教授する。</p> <p>⑪ 茂木 千恵/2回</p> <p>動物行動学的視点から、犬の行動原理の適切な解釈と行動発現の要因の理解に基づく、飼育者と犬の良好な関係性の構築方法を教授する。</p> <p>⑯ 早田 由貴子/2回</p> <p>家猫の特性を解説し、家猫のおかれている現状と課題について担当する。</p>	オムニ バス方 式

授 業 科 目 の 概 要

（動物看護学研究科動物看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	動物人間関係学特論（つづき）	<p>① 小嶋 篤史／2回） 飼鳥の特性を解説し、飼鳥のおかれている現状と課題について担当する。</p> <p>② 奥野 卓司／2回） 動物文化人類学的視点から、日本人と動物、飼鳥、コンパニオン・アニマルとの関係について教授する。</p> <p>③ 新島 典子／2回） 社会学的視点から、国内外の伴侶動物と人との多様な関係性と動物観を、死生学的視点から、国内外のペットロスや死生観を取り上げ、論文や資料紹介を通じて、理解を深めるよう教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	動物人間関係学演習	<p>(概要)</p> <p>人と動物のつながりについて、具体的な題材を使って、質的量的両面の研究方法を学び理解する。具体的には、フィールドワーク、調査やデータベース分析・解析を行うための研究方法を修得する。担当教員がそれぞれの専門分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、フィールドワーク及び、遺伝子・ゲノム情報データベースの利用・分析・解析などにより行う。学生自らが把握した情報のディスカッション及びプレゼンテーションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>⑤ 小黒 美枝子/4 回)</p> <p>分子生物学的及びバイオテクノロジーの研究法に基づく論文文献の検索・収集・プレゼンテーションを通して、情報収集の一連の流れを修得する。これらの情報収集の流れを学生の研究に生かすために、プレゼンテーションさせる。</p> <p>⑪ 茂木 千恵/3 回)</p> <p>コンパニオン・アニマルの飼育者を対象とした大規模アンケート調査事例を基に、調査手法、調査項目の選定など情報収集の一連の流れ、及び得られた回答の集計及び多変量解析法を修得させる。</p> <p>② 奥野 卓司/4 回)</p> <p>動物文化人類学の調査方法、その解読方法について具体例により解説し、学生の研究にそれらを生かして、プレゼンテーションさせる。</p> <p>⑨ 新島 典子/4 回)</p> <p>伴侶動物と人の多様な関係性や、国内外のペットロスに関わる諸問題について、社会学的研究法に基づいた文献検索・収集・データ処理などの情報収集の一連の流れをディスカッション、プレゼンテーションを通して修得させる。</p>	オムニ バス方 式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	ヒトと動物の環境科学特論	<p>（概要）</p> <p>伴侶動物を除けば人間と他の動物との間に、かつては一定の距離が保たれていた。しかし、極度の自然開発による野生動物由来新興感染症の発生、エキゾチックアニマルのペット化、種々の汚染物質の環境への放出による公害病に先んじた動物の疾病など、近年、人間と他の生き物との関係が変化しつつある。他の動物が生存できない環境では、いずれ人間の生存も危うくなる。そこで、多くの分野の研究者が協力して種々の環境問題を解決しようとするのが環境科学である。本特論では日本列島をはじめとする地域固有の自然生態系における特定外来生物や環境汚染の影響の特性、それらにより発生した動物由来感染症の流行などの動物看護学分野に関連した環境問題と、問題に対してどのような対応がなされてきたのかを教授する。また、海洋・陸域の汚染やそれらによる人間や愛玩動物への健康被害の可能性など最近の世界的な問題についても教授する。</p>	オムニバス方式
		<p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>⑥ 植田 富貴子／8回）</p> <p>動物看護学の観点からみた環境問題について教授し、特に動物由来感染症の流行と気候変動、環境汚染、自然開発、生活環境の変化（産業動物・伴侶動物・野生動物）、各種輸送機関の発達との関係や、産業動物と食中毒の関係等について教授する。</p> <p>⑩ 石川 牧子／7回）</p> <p>動物看護学の観点からみた環境問題について理解するために重要となる環境科学の現状と問題点、環境の評価法、生物多様性と固有の自然生態系の成立と破壊について俯瞰し、最近の問題（陸域、沿岸域の特定外来生物による在来種や愛玩動物への影響と対策、河川・海洋・陸域の汚濁・汚染）について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	動物看護教育特論	<p>(概要)</p> <p>動物看護の養成所、及び動物看護・臨床等の現場で教育・指導の役割を担う動物看護師は、教育・実践領域において系統的な教育活動及び衛生管理教育を行えるよう基本的知識を修得し、動物看護教育制度や体制の課題を検討の上、問題解決に向けた方法を考察する必要がある。</p> <p>本講義では、我が国と諸外国における動物看護教育の歴史と変遷、動物看護教育の制度と現状や、愛玩動物看護師法と動物看護教育の課題について教授し、併せて、人獣共通感染症の観点から、動物看護師の養成所の他、動物看護師が勤務する動物病院・研究所等における公衆衛生や、動物関連産業（ペットショップ・グルーミングサロン等）・動物福祉施設（動物シェルター等）での公衆衛生について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>① 山崎 薫／5回</p> <p>動物医療を含むペット関連産業の市場が拡大する中で、愛玩動物看護師の国家資格が法制化された現状に鑑み、動物看護教育の養成所等で教育・指導に携わる人材の教育ができるよう、日本及び諸外国における動物看護教育の歴史に始まり、動物看護教育制度の現状や課題について教授する。</p> <p>⑥ 植田 富貴子／3回</p> <p>動物病院・研究所等における公衆衛生や、動物関連産業（ペットショップ・グルーミングサロン等）・動物福祉施設（動物シェルター等）での公衆衛生について教授する。</p>	オムニ バス方 式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	研究方法論	<p>（概要）</p> <p>動物看護における研究の目的を明示し、研究を実施するための方法や機器、材料の採取法やその際に必要な対象者への倫理的配慮、得られたデータの取り扱い方や解析法、文献研究の方法、アンケート調査の方法、フィールドワーク、さらに論文へ至るまでのプロセスや課題、研究テーマの例などを各分野の別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。また、修士論文指導担当教員は、当該分野に関わる国内外の論文を紹介する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>⑦ 梅村 隆志／3回</p> <p>研究テーマ選択のための最新情報の入手方法、研究計画精緻化の考え方、研究成果の公表手段、その際の倫理的課題について教授する。</p> <p>⑧ 今村 伸一郎・⑦ 梅村 隆志／1回（共同）</p> <p>動物解剖生理学及び動物病理学の視点から、その研究テーマの構築、データ収集方法等を教授する。</p> <p>研究対象動物の構造的機能的特徴を研究理解する上で必要な情報を、実物をもって調べる重要性について教授し、研究結果としての病理学的データの特異性、それに伴う研究計画の考え方について教授する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	研究方法論(つづき)	<p>(3) 岡崎 登志夫・(4) 櫻井 富士朗/1回(共同) 動物検査学・動物内科学の視点から、その研究を実施するための方法や、データから得られた病態について教授する。 血液や尿中の各種成分の変動を総合的に解析し、その変動要因を明らかにして、各種動物の病態に対応できる動物看護の重要性について教授し、併設の ER 八王子動物高度医療救急救命センターとの共同研究による疾患動物の MRI や CT 画像を利用した各疾病の 3D 病態の再構築による疾病の理解を教授する。</p> <p>(6) 植田 富貴子/1回 生物モニタリング指標の作成(文献検索):動物体内における有害物質の濃度に関して記載した文献を収集させ、データを精査してモニタリングのための指標を作成する。</p> <p>(5) 小黒 美枝子・(11) 茂木 千恵/1回(共同) 動物分子生物学、動物行動学の視点から、その研究テーマの構築、調査、解読、解析方法を教授する。 分子生物学的研究方法に基づいて、犬の多様な遺伝子・ゲノムを解読、解析する方法について教授し、イヌの実験観察に基づく行動分析法及び飼育者による行動傾向の評価手法に関する文献の紹介と調査実施に至る手順を教授する。</p> <p>(2) 奥野 卓司・(9) 新島 典子/1回(共同) 動物文化人類学・芸術文化表象・ペットロス・ペットの社会学の視点から、その研究テーマの構築、調査・解読方法を教授する。 各地でのフィールド調査とともに、絵画、アニメなどにおける動物の表象を解読し、多様な動物観、関係性を相対的に比較する方法を教授し、各種の社会調査法を用いてペットロスや伴侶動物と人間や社会との関係性を質的量的に分析する方法について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

（動物看護学研究科動物看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 動物看護学領域	応用動物看護学 I	<p>（概要）</p> <p>解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となる3本柱で、動物看護学を学ぶ上においても極めて重要である。臨床場面において、これら基礎知識の学修の上に、これらをさまざまな臨床場面で応用ができて初めて問題解決が可能となる。そこで本講義では、動物看護学特論で学修したことを基に、この3本柱のうち、特に中核となる骨格・筋肉の支持組織・循環器・消化器・神経・生殖器などの機能や炎症や腫瘍の分野について、受講者間で討論しながら、専門家としての理解の定着を図る。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>⑧ 今村 伸一郎／8回）</p> <p>動物看護学特論で学修したことを基に、動物の身体の構造とその機能の関連性について、より専門性に富んだ内容の理解と定着を図り、その中から新しい研究テーマを見つけ出せる力を養う。</p> <p>⑦ 梅村 隆志／7回）</p> <p>動物病理学の2大支柱である「炎症」と「腫瘍」の分子病理学的理解を深める。さらにこの中から新しい研究テーマを見つけ出せる力を養う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 動物看護学領域	応用動物看護学演習 I	<p>（概要）</p> <p>動物看護学を理解修得する上で必要不可欠となるのが医学基礎分野である解剖生理学、病理学分野の知識、知見となる。本演習では、動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見に関する文献等を検索、入手し、その内容について正しく理解できるように指導するとともに、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野が動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら発見し、解決する能力を涵養する。</p> <p>（オムニバス方式／全 15 回）</p> <p>⑧ 今村 伸一郎／8 回）</p> <p>動物看護学の実践に必要な動物解剖生理学分野の重要事項の整理と理解を図る。とりわけ骨格、消化器系、呼吸・循環器系に関する事項は、日常の臨床業務の中では重要課題となる項目であることから、この分野の情報収集と問題点抽出についてディスカッションを通して行い、新たな研究テーマ発見につなげる。</p> <p>⑦ 梅村 隆志／7 回）</p> <p>分子病理学分野はその技術手法開発が日進月歩で進んでいることから、その内容についてしっかりと理解把握しておくことが、病理学分野における新しい研究テーマの問題解決法につながる可能性が高く、重要課題と位置付けられるため、最新の解析法について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	動物看護学領域 応用動物看護学Ⅱ	<p>（概要）</p> <p>愛玩動物の腎疾患や肝疾患や白血病や多発性骨髄腫や血液学的先天異常、貧血、循環器、内分泌・呼吸器・消化器・感染症疾患などの各種疾患に起因する症状や異常データについて、その原因となる物質の体内動態やシステムとメカニズムについて学修し、これらの病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験・看護法について、担当教員の研究論文を紹介しながら、その理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>③ 岡崎 登志夫／7回）</p> <p>動物種ごとの健康状態を血液学や生化学的観点から、溶血性疾患や血液学的先天異常などによって恒常性が破られ、検査データが異常を示すに至る過程について学修し、各種疾患に対応した専門的動物看護に関する高度な知識・技術等の修得を目指して、実技と討論を交えて理解を深めるとともに、老化や肥満などについても、血液検査データをもとに予防医学の観点からも追求する。</p> <p>④ 櫻井 富士朗／8回）</p> <p>循環器疾患、内分泌疾患、感染症などの各種疾患に起因した病態と検査と看護法についての理解を深め、これらの病態の基本的理解の上に、各種疾患に対応した専門的動物看護に関する高度な知識・技術等の修得を目指して、実技と討論を交えて理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	動物看護学領域 応用動物看護学演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な正常状態を理解し、腎疾患、肝疾患、白血病、多発性骨髄腫、Hb異常症、貧血、循環器疾患、内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症などにおける血球、血清、尿などの各種成分の体内動態やデータ異常発生のシステムとメカニズムについて理解を深め、これらの異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について、実技、討論、課題まとめなどを通して学修し、修士論文執筆に備えることができるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>③ 岡崎 登志夫／7回</p> <p>演習により、血液・血清試料の各種スペクトル分析や電気泳動分析データについて異常を示すに至るシステムとメカニズムについて学修し、各種疾患の専門的動物看護に対応できる高度な知識・技術等の修得を目指して、実技と討論を交えて理解を深める。</p> <p>④ 櫻井 富士朗／8回</p> <p>生体を用いない動物シミュレーション教材を用いた演習により、身体検査法、体温測定法、採血法、褥瘡の看護法、カテーテル挿入法、外耳炎の処置、出産介助などを体感学習することで、各種疾病の病態の基本的理解を高め、専門的動物看護に対応できる高度な知識・技術等の修得を目指して、実技と討論を交えて理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 動物人間関係学領域	応用動物人間関係学 I	サルから別れたヒトは、他の野生動物を食料とする食物連鎖の頂点に立った。そして、野生動物を追い立てるために狼を飼育して狩猟犬とし、野生動物も家畜化した。家畜化された動物は人間の食料となる産業動物や使役のための動物となり、狩猟犬は伴侶動物となった。さらに、人間の興味や学習のために展示動物が生まれ、科学や医学の発達のために実験動物が生まれた。このように、人間と動物は地球上で様々な関係を保ちながら共存してきたが、この長い歴史の間にはヒトと動物の共通感染症、化学物質による人間と動物の疾病、さらに近年は、野生動物種の急激な減少、害獣による被害などが起きている。このような状況に鑑み、人間・動物共生の歴史と宗教的背景の概要、生物多様性・遺伝的多様性・食物連鎖、ヒトと動物の共通感染症・新興・再興感染症、化学物質による食品原材料の汚染と疾病、生物モニタリング、害獣・特定外来生物による被害と管理、伴侶動物の位置づけと飼養管理、動物愛護と動物福祉について講義する。	
	応用動物人間関係学演習 I	本演習では、人類と動物の共生の歴史や宗教的背景、生物多様性の問題、ヒトと動物の共通感染症、化学物質による食品汚染、害獣・外来生物被害など、動物関連公衆衛生学分野のテーマについて、学生自らが予め文献を収集して授業時間中に科目を選択した学生間で討論しあい、当該分野における問題点を発見し、それらの問題に対する動物看護学領域としての対応策を考えることにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 動物人間関係学領域	応用動物人間関係学Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>「動物と人間の関係性」について、文化人類学、分子生物学、社会学、動物行動学、学際的学問分野である動物人間関係学の多様で幅広い視点から解説する。研究課題を理解し、課題解決のための能力を修得する。学生が修士論文の執筆に備えることができるように教授する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人の関係、現代社会における動物と人の関係について、担当者の研究論文、成書を紹介し、解説する。秋田犬では本学図書館所蔵の秋田犬8ミリフィルムなどの資料も紹介し、教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑤ 小黒 美枝子/4回 動物分子生物学的研究、及びバイオテクノロジー研究の視点から、秋田犬と人の関係性を、秋田犬のルーツ、秋田犬の毛色・毛質を取り上げ、論文や秋田犬8ミリフィルムアーカイブ化資料を含めた資料の紹介を通じて解説する。さらに秋田犬の血統保存管理について、秋田犬8ミリフィルムアーカイブ化資料に基づき、遺伝的背景の変遷と課題について教授する。</p> <p>⑪ 茂木 千恵/3回 動物行動学的調査法に基づく、犬と飼い主の関係性に関する論文や関係文献を取り上げ、犬の生理的反応及び行動に影響を与える飼い主の要因を教授する。</p> <p>② 奥野 卓司/4回 動物文化人類学の視点から、世界と日本のコンパニオン・アニマル、飼鳥、野鳥と人間の関係の歴史、文化を教授する。</p> <p>⑨ 新島 典子/4回 社会学の研究手法に基づき、社会における犬や猫などのペットと人間の多様な関係性、それに起因して飼い主や現代社会が抱える諸問題、犬や猫の終末期ケアや死別により飼い主が対峙する死生学的問題と社会的背景を教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（動物看護学研究科動物看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 動物人間関係学領域	応用動物人間関係学演習Ⅱ	<p>（概要）</p> <p>人と動物のつながりについて、長年にわたり人が保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。また、フィールドワークの実践、遺伝子ゲノム解析・分析をディスカッションも含めて行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>⑤ 小黒 美枝子／4回 犬の動物学、分子生物学からみた、人と犬のつながりに関する論文の概要、レビューの検討、関係文献の収集と内容把握、プレゼンテーションを行い、修士論文の執筆に備えることができるようにする。</p> <p>⑪ 茂木 千恵／3回 動物行動学的調査法に基づく、犬と飼い主の関係性に関する論文、及び犬の行動に影響を与える飼い主の要因に関する科学論文及び関係文献の収集と内容把握、プレゼンテーションを行い、修士論文の執筆に備えることができるようにする。</p> <p>⑫ 奥野 卓司／4回 動物文化人類学及び芸術文化表象の調査方法・解読方法を、各自の研究テーマに沿って使うための指導を行い、修士論文の執筆に備えることができるようにする。</p> <p>⑨ 新島 典子／4回 社会学的視点からみた、犬や猫と飼い主の関係性、犬や猫の終末期ケアや死別により飼い主が抱える死生学的諸問題に関する文献の収集と内容把握、討論、フィールドワークの実践、分析、プレゼンテーションを行い、修士論文の執筆に備えることができるようにする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	インターンシップ	<p>本インターンシップでは、ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER 八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue (救命救急) の現場における治療・手術・入院管理に対する、高度動物看護医療体制について学修する。</p> <p>同センターでは、手術項目として、一般動物診療施設では扱えない開心術や開頭術をはじめ、脊髄系手術、腫瘍系手術、さらに手術では難しいとされる胆のう系手術などを手がけていることから、これらの手術に必要な特殊手術器具の準備、扱い、術中モニタリング管理、術後の疾患ごとのきめ細かい管理などの知識と技術を実際の現場を通じて修得する。</p> <p>また、高度医療救命救急センターにおいて愛玩動物看護師は、MRI、CT、各種検査機器など、特殊検査機器の使用準備にも関わる必要があることから、これら先端機器に関する知識・管理等について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>(概要)</p> <p>本特別研究では、指導教員の指導のもと、研究計画書を作成し、それに基づいてデータを収集・解析し、論文としてまとめる能力を涵養する。また、それらの成果を、わかりやすく発表する能力と技能を修得する。</p> <p>⑧ 今村 伸一郎)</p> <p>まず、研究対象とする数種類の動物の骨格標本を実際に作製することにより、その骨格構造の実際のデータを抽出し、それを近縁または遠縁のさまざまな動物の骨格構造から得られたデータと比較することにより、研究対象動物の骨格の構造的特徴やその意義について解析し、動物看護の実践に資する研究を指導する。</p> <p>⑦ 梅村 隆志)</p> <p>病態把握のための形態学的並びに分子病理学的解析を学修する。酸化的 DNA 損傷をはじめとする各種 DNA 傷害の検出、特定蛋白質あるいは発現 mRNA の局在の検索を通して病態の病理発生を明らかにし、動物看護の実践に資する研究を指導する。</p> <p>③ 岡崎 登志夫)</p> <p>検査データに基づいた正しい病態把握やそれに応じた適切な看護に貢献できるように、イヌ、ネコ、鳥類、魚類等の各種動物血液や尿成分の分析法やそれらの成分の動態解析法に関する研究を指導する。さらに動物看護領域への新規技術の導入や新しい検査法の開発によって、動物看護の一層の発展に貢献できるように研究指導する。</p> <p>(5 富田 幸子)</p> <p>胚発生の形態形成過程の時空間的 3次元レベルの解析と分子シグナル解析による時空間的包括的検討を行う。また MRI や CT 情報に基づいた 3D解析による正常と疾患動物の病態を解析する。正常と疾患を持つ動物の病態を知ることによって動物看護実践の一助となるよう研究を指導する。</p>	

特別研究

授 業 科 目 の 概 要			
(動物看護学研究科動物看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>(6) 植田 富貴子) 人間集団を対象として疾病の予防、健康の保持及び増進に貢献する公衆衛生の目的を踏まえて以下の研究を指導する。1) 生物モニタリングの手法を用いた各種の危害要因のヒトへのリスク評価、2) 動物との共生を目指すためのヒューマン・アニマルボンドの研究を指導する。</p> <p>(5) 小黒 美枝子) 人と犬の密接な関係を理解するために、人が家畜化した犬について分子生物学的解析研究に基づいて、研究を指導する。具体的には、犬の外観から判別できる形質（毛色、毛の長さ、毛質、体の大きさ）と、その形質を決定するあるいは、関連する遺伝子・ゲノム情報の解析研究を指導する。</p> <p>(11) 茂木 千恵) 動物行動学に基づく動物福祉の向上を目指して、客観的な飼育環境の評価基準の選定や、飼育動物の福祉に寄与する飼育者の飼育意識に関連する調査を実施する。飼育者を対象とした量的及び質的調査を通して包括的な解析の研究を指導する。</p> <p>(2) 奥野 卓司) 日本各地でのイヌやネコの飼育、鵜飼や養鶏、保護、動物園など、動物と人間の多様な関係を調査・比較、また絵画や映像、アニメに表象される動物のありようを解読し、その文化の歴史、変容について研究を指導する。</p> <p>(9) 新島 典子) 伴侶動物として飼養される多様な動物種と人との様々な関係性、それが社会や人に及ぼす影響、動物観や死生観、終生飼養にむけた終末期ケア支援、ペットロス予防や対処法などについて、国内外での社会調査を含めた社会学的・死生学的視点から、研究を指導する。</p>	

学校法人ヤマザキ学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和 2 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 3 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
ヤマザキ動物看護大学				ヤマザキ動物看護大学				
動物看護学部				動物看護学部				
動物看護学科	180	—	720	動物看護学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>	定員変更 (Δ80)
動物看護学専攻				動物人間関係学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	学科の設置 (届出)
動物人間関係学専攻				計	180	—	720	
計	180	—	720					
ヤマザキ動物看護専門職短期大学				ヤマザキ動物看護専門職短期大学				
動物トータルケア学科 (3年制)	80	—	240	動物トータルケア学科 (3年制)	80	—	240	
計	80	—	240	計	80	—	240	
ヤマザキ動物専門学校				ヤマザキ動物専門学校				
動物看護・美容・トレーニング学科 (2年制)	40	—	80	動物看護・美容・トレーニング学科 (2年制)	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和 3 年 4 月学生募集停止
				動物看護・美容・トレーニング学科 (3年制)	<u>80</u>	—	<u>240</u>	学科開設の学則変更
計	40	—	80	計	<u>80</u>	—	<u>240</u>	
				ヤマザキ動物看護大学大学院				
				動物看護学研究科				
				動物看護学専攻 (M)				
				計				
				大学院の設置 (認可申請)				
				動物看護学専攻 (M)				
				計				